

# 子育てを考える

## 「子どもとおもちゃと」

第2回

子どもの成長とおもちゃ



こんにちは、おもちゃコンサルタントマスターの柳生です。今回は、「心の栄養素」としてのおもちゃについてお話をさせていただきましたが、主食のおもちゃに何を与えようか・・・と悩まれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。でも、本当は、子どもにとって一番素敵なおもちゃは誰もがもうすでに持っているんです。何だと思いませんか?それは、あなたです!!あなたの顔と、手と、声それが一番素敵なおもちゃなのです。ちょっと子どもの腕の上で、人差し指と中指を「トコトコ」と言いながら歩くように下から上へと動かしてみてください。それだけで、子どもは笑顔になりますよ。スピードを変えたり、表情や声を変えたり、子どもの反応を見ながらうまく変化させて遊べるおもちゃは、メーカーには作れません。お父さん、お母さんは、まず、自分が持っているこの素敵なおもちゃで、赤ちゃんと十分遊ぶことから始めてみてはいかがでしょうか。

ところで、赤ちゃんにいきなりステキを食べさせるお母さんはいませんか。子どもの食事が、母乳やミルクから離乳食、幼児食へと移っていくように、おもちゃも、子どもの発達に合わせて少しずつステップアップしていく必要があります。まずは、母乳やミルクのようなおもちゃというものがあります。ガラガラやモビールなど、おもちゃに子どもが反応するだけで、話しかけやすくなりますね。このような、大人とのコミュニケーションの仲立ちになるようなおもちゃ

がそれに当たります。まわりの大人への信頼関係を育てたり、好奇心を育てたりしてくれます。次に、離乳食のようなおもちゃへとステップアップします。1歳を過ぎた頃からは、ハンマーや玉入れ遊びのような押し引き引っ張ったりつまんだりして指先の感覚を育てるおもちゃ。また、絵本や指人形など、色や形を目で認識し、反応を楽しむおもちゃがこれに当たります。それから、幼児食のようなおもちゃでは、積み木やブロックなど、組み立てる中で創造性を育むおもちゃ。ままごと、ボードゲームなど、誰かと遊ぶことでコミュニケーション能力を高めるおもちゃなどがあります。子どもの育ちの段階ごとにその発達を促すおもちゃがあるわけです。

子どもは、何に興味を持ち、あなたは何を育てていきたいですか?そのような視点から、おもちゃを選んでみてはいかがでしょうか。そして、子どもと一緒に遊びましょう。気がつかなかった子どもの成長にも出会えるかもしれませんね。

(やぎゅう かなこ)  
柳生 かな子



- 1995年 兵庫養正園野高等学校普通科理数コース卒業
- 1999年 香川大学教育学部幼稚園教員養成課程心理学専攻修了
- 高松市立花園保育所勤務
- 2005年 高松市立古高松保育所勤務
- 2007年 おもちゃコンサルタントマスター資格取得
- 2010年 高松市立桜町保育所勤務